

妹尾 宗夫

Senoo Muneo



大きく実ったアワを
収穫する妹尾さん



仲むつまじい
お二人



妹尾 宗夫さん(下河内)

20代で就農、結婚後は妻の豊美さんと夫婦で農業に従事。平成20年から市の農業委員として活動するとともに、市の知的障がい者相談員や河内小学校の学校運営協議会委員など、地域のさまざまな役を務める。趣味はツーリング。ハウスで珍しい植物を育てるのが楽しみ。

アワの献穀者に選ばれて

毎年11月23日に皇居で行われる宮中行事、新嘗祭(にいなめさい)。今年、岡山県から献穀されるアワを育てたのは、農業委員を務め、地域からの信頼も厚い専業農家の妹尾宗夫さんです。「これまで地域とのつながりを大切にしながら地道に農業をしてきたことへのご褒美をもらったような気持ちです」とうれしそうに笑います。献穀のために夫婦で初めてのアワの栽培に挑戦した妹尾さん。「種まきも植え付けも初めてのことで大変でした。ちゃんとできるか心配でしたが、無事に収穫できてほっとしています。とても貴重な体験をさせてもらいました」と振り返ります。

真 庭 人

MANIWA BITO

農作物を作る大切さを未来の担い手へ

妹尾さんが就農したのは約50年前。家族経営の農場で、コメや露地野菜、野菜苗の栽培・出荷を行い、近年はカキ殻資材を使った、里海米の栽培にも力を入れてきました。農場の経営を息子さんたちに譲ってからも、精力的に農作業を手伝い、農場を支え続けています。

そんな妹尾さんには、20年間大切に続けてきた活動があります。地元の河内小学校の児童と一緒に取り組むコメ作りです。「子どもたちは、もみまきに田植え、収穫、最近ではカキ殻まきもします。上級生が下級生に教えてあげているのを見ると、成長を感じてうれしくなります。地元の園児

たちも見学に来て、小学生になったら自分たちもやるんだと楽しみにしてくれているんですよ」と目を細める妹尾さん。「農作物を作ることの大切さを子どもたちにこれからも伝えていきたいです。健康に気をつけて、学校や地域とのつながりを大切にしながら活動を続けていければと思っています」と晴れやかな顔で語ってくれました。

